

(仮称) 中央図書館基本構想策定・オンラインミーティング開催の趣旨

【1. 豊中市立図書館の概況】

- ・ 4つの地域館を中心に、4分館、1分室、2図書室（計11施設）と移動図書館車で全域サービスを展開している
（岡町：中心的役割 千里：千里中央エリアの複合施設 庄内：南部地域の拠点 野畑：書庫）
- ・ 蔵書数は約100万点、貸出件数は平成30年度実績で約350万件
- ・ 登録率は約37%

【2. 豊中市立図書館を取り巻く課題】

（1）サービスの維持・向上に向けた対応

- ・ 限られた資源（人材・資料・予算）の有効活用が必要
- ・ 地域館・分館を含めた図書館全体のサービスをさらに充実するためには、中央図書館の機能が求められる

（2）今日的・将来的ニーズへの対応

- ・ 利用者層が固定化傾向（参考資料「豊中市立図書館に関するアンケート調査報告書概要版」）にあり、利用者層の多様化に向け、利便性向上が課題
- ・ また、資料の貸出返却にとどまらない、多様な図書館サービス提供の可能性を提示する必要がある
- ・ 滞在型の図書館が昨今のトレンドである一方、直近では感染症対策の問題も生じている

（3）施設の老朽化と公共施設等総合管理計画への対応

- ・ 築50年を超える岡町図書館をはじめ、各施設の物理的・機能的劣化が進んでいる
- ・ 全施設を現行規模のまま更新・改修した場合の見込み経費は、今後50年で約127億円
- ・ 公共施設等総合管理計画（平成29年3月策定）において、市全体の施設総量（延床面積）を平成26年度時の80%のフレームに収める方針

（4）事業等の戦略的たな卸し～事務事業見直しへの対応

- ・ 平成22年度「事業等の戦略的たな卸し」で、図書館事業が検討課題にあがっている
- ・ 「令和2年度までに、市民一人あたりコスト（図書館事業費÷人口）を2,000円に」という目標を設定したが、現行で約2,500円と目標未達となっている
- ・ 継続課題となり、今年度中にサービス・コスト目標の再設定とそのロードマップ確立が必要



今年度、「(仮称) 中央図書館基本構想」を策定し、
 今後の豊中市立図書館におけるサービスや施設・機能再編の方向性を示すとともに、
 (仮称) 中央図書館の整備に向け、想定エリアや規模・イメージ等を明らかにする。
 また、それらのスケジュールや、サービス・コスト両面のマネジメントサイクルを示す。

【3. オンラインミーティング開催の趣旨】

- ① 図書館を取り巻く課題について、市民と行政が共通認識を持ち、今後の図書館のあり方について話し合う

課題：限られた資源の中での図書館全体のサービスの維持向上

現在の図書館の利用における課題と将来的ニーズへの対応

施設の老朽化

事業コストの見直し

- ② 中央図書館を中心とした未来の図書館像を想定し、中央図書館のイメージや身近な図書館に必要なサービスについて意見を出し合い、令和2年度に策定予定の（仮称）中央図書館基本構想に反映させる